

オオバ（平坦地）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
促成 半促成 露地 抑制												
主な作業	播種	定植	電照終了	加温終了	保温終了			種播子種	仮植冷蔵	定植電照開始		

オオバ シソ科 原産地：ヒマラヤ～中国中南部

作物名 オオバ

学 名 *Perilla ocymoides* L.

作 型 平坦地

(1) 単棟または連棟ハウス

(2) 暖房機

(3) 灌水施設

(4) 電照施設

技術体系

1 特 徴

草丈 1 m 内外になるシソ科の 1 年性草本で、独特の香気が古くから日本で好まれ、利用されている香辛菜である。

2 栽培条件

(1) 温度

発芽適温 25 ～ 30 ℃、生育適温 20 ～ 25 ℃で高温を好む。低温には弱く、夜間 10 ℃以下で生育が著しく抑制され、5 ℃以下では枯死する。

(2) 日長

典型的な短日植物であり、9 月以降の栽培型では電照が必要となる。

(3) 土壌条件

あまり選ばないが、肥料切れや乾燥は品質低下につながるの、耕土の深い肥沃なほ場を選ぶ。

3 適応地域

平坦地域

4 施設装備

5 経営目標

(1) 収量

5 t/10a

(2) 投下労働時間

4. 150 時間/10a

(3) 所得率

55%

(4) 経営規模

10 a

栽培技術

1 品 種

アオジソ、アオチリメンを用いる。自然状態では 8 ～ 9 月に花が咲き、10 月には瘦果が成熟するので、草勢や香りが良く、葉の緑色が鮮明なものを選抜し、自家採種する。抑制と促成用には、さらにとう立ちの遅いものを選抜する。

新種子は 6 ヶ月の休眠があるため、5 ～ 10 月播種の作では冷蔵（0 ～ 3 ℃）しておいた貯蔵種子を使うが、種子の寿命は 1 ～ 2 年なので、採種はほぼ毎年必要となる。

2 播 種

播種量は 10 a 当たり 60 ～ 90ml 程度必要で、1 ～ 2 昼夜浸水処理して陰干した種子を播種床にばら播きし、かるく覆土する。

3 本圃準備

(1) 土づくり

適応範囲が広く土壌を選ばないが、乾燥を嫌うので、有機物を多用し土壌湿度を保つような土づくりを行う。また、連作地ではセンチュウ害が出やすいため、輪作や土壌消毒などの対策を行う。

(2) 施肥

基肥には有機質肥料を施用する。収穫期に入ってから肥料切れは品質低下につながるので、15～20日ごとに追肥を行う。乾燥を嫌うので、追肥後は必ず灌水をするか、液肥を有効に利用する。

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基 肥	15～20	20～25	15～20
追 肥	10～15	5	5～10
合 計	25～35	25～30	20～30

連作する場合は土壌分析により残肥を計算に入れた施肥設計を行う。

4 育苗

本葉2～3枚時に鉢上げし、本葉4～7枚で定植となる。

8月～3月播種の作型では、花芽分化を抑制するため、本葉1枚時から電照する。

5 栽培管理

(1) 栽植様式

畦幅 120～140cm、条間 40cm、株間 20～25cm の2条植えとする。

(2) 温度管理

定植直後は昼間 23～25℃で管理し、活着後は 15～25℃の適温域での管理を心がける。

夜温が 10℃以下で生育障害、5℃以下で枯死するので、11月以降は加温が必要となる。

(3) 灌水

乾燥に弱いので、自動灌水装置等を利用し、能率的な灌水を行う。

(4) 電照

花芽分化を抑制するため、9～4月は電照が必要となる。60Wの電灯で10a当たり80個、日没から24時まで点灯する。

(5) 摘葉

収穫前に生長点を残して葉を摘んでしまうと、側枝が良く伸びる。

6 収 穫

定植1ヶ月後、草丈 30cm、本葉 10枚頃から収穫を開始する。

葉幅 4～6cm の十分に展開した若い葉を葉柄をつけて収穫する。